

## 2. 史跡周辺の概要

## (1) 市域の面積

加西市は、兵庫県南部、播州平野のほぼ中央に位置し、東経 134° 51'、北緯 34° 56' の地点にある。市域面積は 150.22 km<sup>2</sup> で、東西 12.4km、南北 19.8km の広がりを持ち、東は小野市および加東市に、西は姫路市および福崎町に、南は加古川市に、そして北は西脇市、多可町および市川町にそれぞれ隣接している。

市の北部には古生層の山地（海拔 300～500m）が連なり、中国山地の裾野を形成し、そこを源に発する普光寺川、万願寺川、そして下里川の 3 河川は、丘陵・段丘面を刻み沖積低地を形成しながら万願寺川に合流し、さらに加古川に合流している。

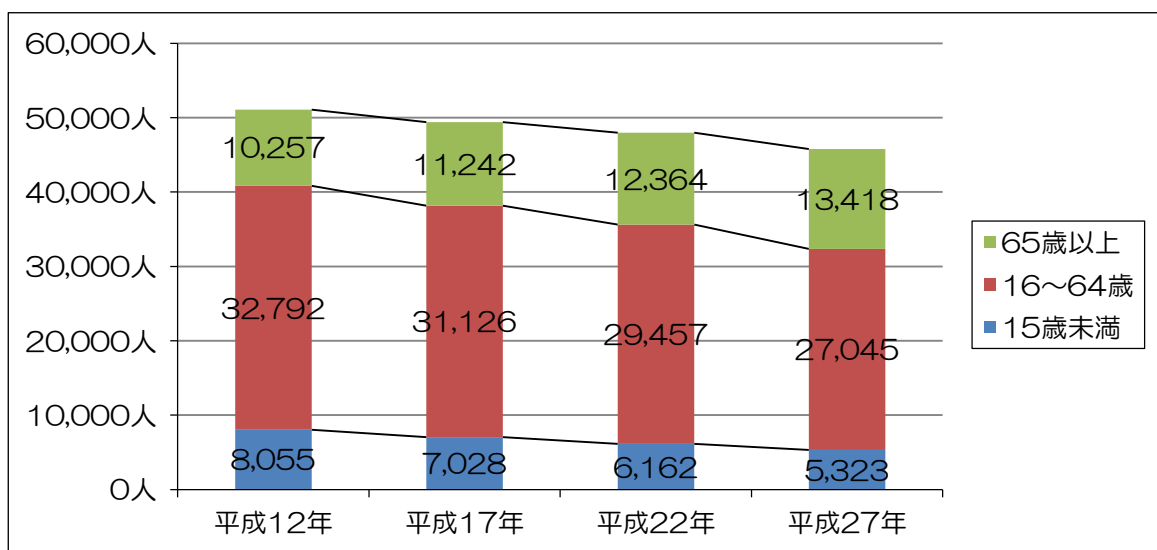
また、市の中心部を流れる万願寺川の東側には広大な青野ヶ原台地が、西側には鶉野台地が広がり、播磨内陸地域最大の平坦地を形成している。特に、この一帯は、ため池が数多く点在し、県下でも有数の密集地帯となっている。

一方、市の南部は、中生代の火山活動で形成された凝灰岩類、流紋岩類を母岩とする低い山地（海拔 200～250m）を形成している。

気候は、瀬戸内式に属し、冬期の降水量が少なく温暖で暮らしやすいところである。水資源は、点在するため池及び加古川支流などに依存していたが、国営ダムの完成により永年の水不足は解消された。周囲の山々の植生について、中国自動車道以南はアカマツ群落が主体で、雑木林の様相を呈しているが、以北には、スギ、ヒノキなどが茂る山林が広がり、緑豊かな自然環境にある。

## (2) 人口

平成 12 年からの加西市の人口動向をみると、総人口は年々減少している。また、各年齢区別に平成 12 年から平成 27 年にかけての人口の増減をみると、「年少人口（15 歳未満）」は 2,732 人減少（-33.9%）、「生産年齢人口（15～64 歳）」は 5,747 人減少（-17.5%）、「老年人口（65 歳以上）」は 3,161 人増加（+30.8%）となっている。



（平成 12～22 年は国勢調査、平成 27 年は 1 月 31 日住民基本台帳）

図 2-1 加西市人口推移

## 2. 史跡周辺の概要

### (3) 周辺環境

加西市は、北条鉄道（北条町駅～粟生駅（小野市））が市内を運行しており、北条町駅から粟生駅までを20分程度で結び、JR加古川駅へは50分程度となっている。

国土交通幹線道路としては、中国自動車道が通っており、加西インターチェンジから大阪まで1時間程度で結ばれている。また、加古川市の山陽自動車道加古川北インターチェンジにも近接しており、利便性に優れた道路状況となっている。

バスは、高速バス、路線バス、コミュニティバス及び住民バスが運行されている。高速バスは、中国自動車道北条バス停・泉バス停で利用でき、また一部の高速バスについては、アスティア加西などでの乗降が可能となっている。路線バスは、姫路市や加古川市、高砂市、加東市と結ばれている。コミュニティバスは市内を循環している。住民バスは、平成23年2月より市北部地域の交通不便地域において「はっぴーバス」と称して運行している。



(都市計画マスタープラン(加西市))

図 2-2 加西市の交通状況